

あります。

**川嶋** 現在、津市が抱える公共施設約1,100件、延床面積約110万㎡を、市長としては今後も整備を続けていくのですか。

**市長** 難しいご質問ですが、合併10年間にやり切れなかったことは何としても進めます。具体的には、サオリーナや久居ホールは、実際に取り掛かっているところです。総合支所も完成しました。また、援護課が入る旧社会福祉センター、津北工事事務所が耐震診断の結果難しい状況なので、こちらを進めていきます。それから、消防署の建て替え、子どもたちのためには、昭和40年代の校舎がたくさんありますので、大規模改造を進めていきます。また、待機児童ゼロを続けるためにもこども園の整備も行います。そして、平成30年にインターハイ、平成33年に国体が行われるので、体育館に手を加えるなど、まだまだしなくてはなりません。それから、公民館やコミュニティ施設が古くなっているので、出張所も含め建て替えの要望もたくさんあります。

こういった中で、公共施設をどうしていくか、非常に悩ましいところです。

**川嶋** 2市6町2村で合併し、面積が非常に大きくなったという点や海・山・市街地・農村といった地域特性を考えたときに、古い施設もある程度見直さなければならぬと思います。約1,100の施設、延床面積約110万㎡の実態を現況把握しているのか教えてください。

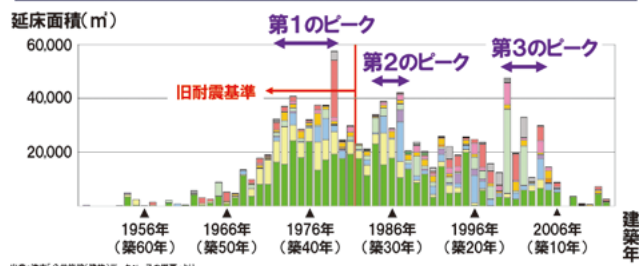
**市長** これは問題意識として私自身も持っていて、総務省からの要請がある前年の平成25年に施設カルテを作りました。各施設のデータを整理して、ホームページでも順次公開しています。この施設カルテは、川嶋先生もご覧いただいていますよね。

**川嶋** この間、津市の担当者から分厚いファイルが5冊送られてきました。大きな段ボール箱が届き、足の踏み場もないような状況になりました。それだけたくさんの施設がありますが、一番大きな課題は40年～50年経った老朽化施設をどうするかです。津市の場合、1976年ごろから40年ほど経過している施設がたくさんあるのがグラフを見ると分かります。築後40年経過した施設は約2割ですが、問題は、その予備軍である30年経過した施設が次に控えていることです。さらにその20年先もこういった施設があり、津市では、築40年～20年までの

## 津市の公共施設の築年別整備状況

1970～80年代に建設が集中

大規模改修や建替えなどの更新時期も一斉に訪れる



間の施設をトータルで見ると相当老朽化しているのが見えてきます。約110万㎡の内の7割～8割がこのあたりにある。早急に対応していかなくてはなりません。

**市長** 公共施設は築後30年あたりで手を加えないと耐用年数まで維持できません。もう一つは、その時代に何が必要だったかと、今何が必要かが変わってきています。時代が変わっても必要とされる施設を提供したいのですが、今後の見通しも含めてご助言いただけますか。

**川嶋** 今まで津市が整備してきた公共施設は、対象者

別・目的別・国の補助金別と整理されてきた関係上、全部縦割りです。ですから、相互の利用ができず使い切れていない施設がたくさんあると思います。例えば、保健センターという施設は、健診を行うのは年間3分の1ぐらいで、他の空いた時間をもっと多目的に使えるように工夫することで、有効に利用できます。

**市長** 各所管の縦割りをどう廃していくか、例えば教育委員会が所管する学校を地域で活用するコミュニティールームにするなど取り組んでいます。特に大規模改造のときに議論するチャンスですよ。

## YUKIO KAWASHIMA

日本経営協会  
専任コンサルタント

川嶋幸夫さん

自治体の公共施設マネジメント、行財政改革が専門分野。全国各地で自治体向けの研修や講演会を行う。高松市、三原市、松阪市をはじめ15を超える自治体でアドバイザーなどを務める。

